

令和7年度 屋久島町立宮浦小学校 令和7年10月29日







▶きらきらのポンポンやバンダナ,フラッ グを手に、笑顔いっぱいに踊る姿がとても 素敵で、見ている人の心を元気に、明るく してくれました。

出会い ~屋久島の秋に寄せて~

校長 馬塲 智也(ばば ともなり)

屋久島の山々が少しずつ色づき始め, 朝夕の空気に秋の深まりを感じる季節とな りました。運動会の振替休日の翌日, 長袖 シャツやカーディガンを羽織って登校する 子供たちの姿が増えてきました。肌寒さを 感じて衣類を調整してきたのでしょう。 「自分は暑がりだし、まだ半袖で大丈夫」 と言いながら、実は衣替えが面倒だっただ けの理由で半袖シャツを着てきた私は、肌 寒さに腕をさすりながら, 「とりあえず今 週いっぱいは半袖で頑張ってみようかな」 と, 言い訳を目的にすり替えることにしま した。子供たちは、運動会を経て一回り成 長し、次の学びへと向かっています。

振替休日の日, 私はひとりのヒッチハイ カーを拾い, 安房まで送り届けました。世 界遺産の島・屋久島には, 海外からの観光 客が多く訪れます。そのため、ヒッチハイ カーもよく見かけます。私は、そうした 方々をできるだけ拾って送るようにしてい ます。というのも、自分自身が異国で旅を した際, 多くの人に助けてもらった経験が あるからです。その恩を, 今度は自分が助 けを求める人に応えることで返したいと思 っています。

そのヒッチハイカーは, アイルランドか ら来た若者でした。2年間,ミドルスクー ル(日本の中学校にあたる時期の学校)で 科学の教員として働き、今は貯金したお金 で世界を旅しているとのこと。屋久島に来 る前は、メキシコからカナダまで徒歩とヒ ッチハイクで旅していたそうです。しばら く旅をした後は、また学校へ戻り、教師と して子供たちと過ごしたいと話していまし た。彼にとって子供たちとの時間は,「自 分自身の成長を促してくれる貴重な出会 い」だと語っていました。同じ職業として 共感できることが多く,素敵な出会いを得 ることができました。

ところで、世界ではこの時期、ノーベル 賞の発表があります。今年は日本から2人 の研究者が受賞されました。大阪大学の坂 口志文さんは, 免疫の働きを調整する

「制御性T細胞」の研究で生理学・医学賞 を, 京都大学の北川進さんは, 分子を自在 に組み合わせる「金属有機構造体 (MOF)」の研究で化学賞を受賞されまし た。どちらの研究も、長い年月をかけて積 み重ねられた成果です。しかし、新聞を読 んでみると、その背景には研究者としての 努力だけでなく、人生の中で出会った人々 との関わりがあったことが分かります。

坂口さんは、研究の道を共に歩んだ妻・ 教子さんとの出会いを「伴走者」として語 っていました。アメリカ留学時代から実験 を共に行い、論文も連名で発表するなど, 夫婦で支え合いながら研究を続けてきたそ うです。また、幼少期には教育者である両 親のもとで育ち、父親の「本を読みなさ い」という言葉が、知的好奇心を育てる土 壌となったと語っていました。

北川さんは、近畿大学で助手として勤務 していた頃、恩師との出会いによって研究 の方向性を見出したそうです。その後も, 挑戦する姿勢をもち続けると同時に教え子 との関係を大切にし, 留学中の学生に空港 まで会いに行ったり、結婚式でスピーチを したりと、人とのつながりを大切にする姿 勢が印象的でした。「出会い」が人の成長 や学びを深める大きな力になるんだなあと 改めて感じる話でした。

学校は、子供たちにとって多くの出会い の場です。友だち, 先生, 地域の方々との 関わりの中で, 子供たちは少しずつ自分を 知り, 他者を理解し, 成長していきます。 ノーベル賞のような大きな成果も, 日々の 小さな出会いと学びの積み重ねから生まれ るのだと思います。屋久島町の秋は, 運動 会や陸上記録会などの体育的行事を経て, なかよし音楽会, なかよし交流会など町全 体の行事が今後も続きます。学校生活, 日々の生活の中で子供たちがどのような出 会いを得るか実り多き秋となることを願う と同時に, 私たち大人もまた, 子供たちと 過ごす時間や出会いから多くを学び、成長 していきたいと思います。



